

平成30年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	盛岡	学校名	岩手町立川口中学校	TEL	0195-65-2030
------	----	-----	-----------	-----	--------------

学校全体で取り組む学力向上

【今年度の目標】

- 1 「いわての授業づくり3つの視点」を生かして授業改善に努める。

[中2県学調質問紙を指標とする。]

指標1：「学習の見通し・目標」の肯定評価を96%

(H29 本校新入生 78%)

指標2：「振り返り」の肯定評価を92%

(H29 本校新入生 75%)

- 2 学習定着度を向上させる。

[中2県学調を指標とする。県平均を100とした場合。]

指標1：国語の正答率県比5ポイント上昇

指標2：数学の正答率県比5ポイント上昇

指標3：英語の正答率県比5ポイント上昇

指標4：社会の正答率県比6ポイント上昇

指標5：理科の正答率県比6ポイント上昇

- 3 生徒の自己肯定感・自己有用感を高める。 [中2県学調を指標とする。]

指標1：「自分にはよいところがあると思う」の肯定評価を70%

指標2：「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」の肯定評価を97%

指標3：「人が困っているときは進んで助けようと思う」の肯定評価を97%

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

- 1 教科チーム・学年チームで研究を推進した。
- 2 授業以外の取組を充実させ、全学級で取り組んだ。
- 3 自主的に家庭学習ができる生徒の育成をめざし、共通の「手引き」を活用した。



用語を使って説明する
連立方程式の授業（数学）



学び合いながら、より良い跳び方を
探る、跳び箱の授業（保健体育）

【具体的な取組】

1 教科チーム・学年チームでの研究推進

本校は小規模校であり、単独の教科部会が成立しない状況である。今年度から、文系（国語・社会・英語）、理数系（理科・数学）、実技系（技術、保体）の3つのチームに分かれて授業研究を進めるようにした（美術・家庭は「きめ細かな指導対応」）。また、教室環境の整備、写真記録、授業研究会記録等を、授業学年チームが担当することにし、協力して校内研究を進める体制にした。

教科	取組目標（H29 末～30）	振り返り（H30. 11 月）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 辞書引きや熟語の学習を強化する。領域を繋げて指導し、総合的な向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文や韻文に全員で取り組めた。 生徒の疑問を大切に学びを進められた。 学力調査で落ちている問題を、もう一度校内のテストで出題して定着を図った。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 小テストの実施、グループでの学び合い、振り返りを生かして、基礎事項の定着に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(1年)やノート(2,3年)学習の工夫に努めた。 小テストを昨年度より多く実施し、理解や定着のステップを細かく踏めた。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りや根拠に基づき論述する機会を増やす。振り返りの時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小グループで話し合う場を設定する機会を多くした。 視聴覚教材など、生徒が考えやすい資料の提示に努めた。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項と現在の学習内容のつながりを実感させる授業の工夫。実験の操作学習の強化。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の操作学習は定着が見えた。 既習と現在の授業のつながりは、うまくいく授業を増やせるように工夫を続けていく。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本（特に「書く」「読む」）の定着を目指して、授業を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し学習する教材や指導の工夫により、2年生は「読む」力、次いで「書く」力が定着し始めた生徒が多い。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 小ステップの目標設定を続け、曲想を深めて奏でられるようにレベルを上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習から、新しい音符や楽曲について予想して考える等、自主的に学ぶ授業ができた。 感受性や感じたことを表現する語彙力を伸ばしたい。
保体	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協力して学びが進むように授業を工夫する。学校全体として落ちている体力を引き上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークを多く取り入れて授業ができた。話し合う視点もしっかり示せた。 引き続き、基礎体力の向上を図る。
技術	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活で経験不足の知識や作業について補充場面を作り、計画的に学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気安全についての学習や工具の使い方など、生活場面を考えた作業を多く取り入れた。生徒の経験不足を補充する取り組みは続けていきたい。
総合的な学習の時間		<ul style="list-style-type: none"> 1学期の学年行事の体験について、全校生徒が学年ごとに数名の班を作り、ポスターセッションの手法を用いて発表できた。自分たちのテーマの理由や、知らせたいことを、他学年の生徒や地域の人に話した。プレゼンテーション能力の伸長に有効だった。

2 授業以外の取組の充実

(1) 朝や業間の短い時間を生かした、「生徒が学ぶ」時間の確保・充実に努める。

- ア 読書
 - ・全校で週4日朝読書を行う。
 - ・学級ごとにビブリオバトルを行う。
 - ・ポップの掲示もする。(年2回)
- イ N I E
 - ・毎日生徒が交替で「気になった記事」を紹介し、感想を述べる。



ビブリオバトルの様子

(2) 生徒の活動による学力向上の取組一年4回の学習コンクール

生徒会学習委員会が主催。あらかじめ1年生も取り組める程度の練習問題を50問ほど用意する。約1週間、朝自習や家庭学習で勉強する期間を確保し、練習問題と同一の問題でテストを実施する。5月(都道府県名)、7月(漢字)、12月(英単語)、1月(計算)と年4回取り組み、学級平均点の順位を競う「団体の部」と、学級ごとの合格者の割合を競う「個人の部」を実施。満点の生徒は「満点賞」として表彰し、4回とも満点の者は特別に表彰する。合格(80点)に満たない生徒に対しては、学年の取り組みで合格するまで、あるいは個人の力に合わせて支援する。下の表は平成29年度入学生の実績で、満点率や合格率が向上していることが分かる。勉強のしかたや基礎学力、学級集団・学習集団の力を身につけるのに有効な取組であるととらえている。

	H29.5月	7月	12月	H30.1月	5月	7月	12月
満点率(%)	16.7	36.1	18.9	25.8	54.0	27.0	46.0
合格率(%)	41.7	77.8	64.9	71.0	75.7	83.8	89.2

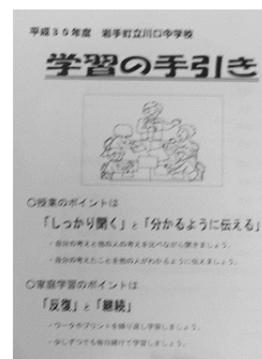
3 自主的に家庭学習ができる生徒を目指す工夫

(1) 生徒が家庭学習に活用できるようなワークシートや板書の工夫に努めた。



予習プリントとほぼ同じ黒板で学習する(国語)

(2) 小中連携ファミリースクールで作成した「学習の手引き」を活用し、4月に全校生徒で家庭学習の手引きを確認した。また、年2回の「家庭学習強化週間」に小中連携で取り組んだ。



「学習の手引き」

【成果】

昨年度新入生学調・本年度中2県学調と、2つの県の調査を行った、平成29年度入学生（現2年）に絞って成果をまとめた。【今年度の目標】に挙げた中で到達できたのは、2「学習定着度の向上」の社会と理科の正答率のみであった。

しかし、目標の数値には届かなかったものの、次のような成果もあった。

1 学習調査の正答率に現れた向上

- (1) 目標に到達しなかったが、【今年度の目標】(2)では、国語で3、英語で3の向上が見られた。
- (2) 国語の小問では、H29新入生学調で「聞く・話す」の6設問が全て県に劣り、そのうちの1問は県比135以下であった。中2県学調では5設問中1設問が県と同等になり、-30台という大差の問題はなくなった。「読む」領域でも、平均正答率で、県との差が3縮まった。
- (3) 設問・生徒は異なるが、本年度と昨年度の中2県学調の平均正答率（県比）を比較すると、全教科で本年度が昨年度を上回った（国語10、数学5、英語24、社会15、理科20）。

2 学習調査の質問紙に現れた向上

- (1) 中2県学調の質問紙調査で平成29年度入学生と比較すると、より長く家庭学習をする生徒が増えた。
「10. 学校の授業以外で一日にどれぐらいの時間勉強するか。」

	2時間以上	1~2時間	30~60分	10~30分	10分以上	全くなし
H29 本校 2年	0%	8%	24%	32%	24%	12%
H30 本校 2年	3%	19%	43%	22%	5%	8%
H30 県 2年	3%	19%	48%	22%	6%	2%

- (2) 読書を好む生徒が増えた。
「14. 読書は好きか。」 H29 本校 56% → H30 本校 75%に向上。（+19）
- (3) 「授業の内容がよく分かる」と答える生徒が増えた。
「30. 34. 38. 42. 46. 授業の内容はよく分かるか。」
国語 H29 52% → H30 64%に向上。（+12）
社会 H29 76% → H30 87%に向上。（+11）
理科 H29 84% → H30 92%に向上。（+8）
- (4) 数学でも「36. 問題を解くためにあきらめずいろいろな方法を探す」で肯定評価が10ポイント増えた。
- (5) 英語では「48. 将来どの程度まで身に付けたいか」で昨年度は0であった「国際社会で活躍したい」が8%となった。
- (6) 「24. 普段の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思うか。」
H29 76% → H30 84%に向上。（+8）

一方、【今年度の目標】1「『いわての授業づくり3つの視点』を生かした授業改善」については、「目標設定」肯定評価が84%（目標96%）、「振り返り」が62%（同92%）に留まった。「目標設定」はH29新入生学調を上回ったものの、教員の意識と生徒の意識には差が大きく、より明確な場の設定を行うことをはじめとする授業の充実が課題となった。

また、【今年度の目標】3「生徒の自己肯定感・自己有用感を高める」については、

「自分にはよいところがあると思う」68%（目標70%・H29新入生学調+8）

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」89%（目標97%・±0）

「人が困っているときは進んで助けようと思う」89%（目標97%・±0）

と、いずれも目標に到達しなかったものの、維持または向上という結果を得た。学習コンクールの取組をはじめ、称揚の場、認める場の一層の充実を、学校全体の取組として進めていきたい。